

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
72

2020 長月・神無月

特集／「広報の充実」 ——本山が行う広報活動



特集

「広報の充実」——本山が行う広報活動

2020年度、当教団が掲げる事業方針の柱の一つに「広報の充実」があります。入門を促すことで、門信徒が直接増える広報もあれば、門信徒にはならなくとも、金剛禅運動の理解者を増やすことで金剛禅の教えを広め、将来、門信徒になる可能性のある方を間接的に増やすことも大事な広報です。本特集では、現在、本山が取り組んでいる広報活動を紹介します。

創始70周年が もたらした転機

本山は門信徒にとつての聖地、あるいは故郷のように思いを寄せている方も少なくありません。ところが、少林寺拳法に関わっていない方にとつては、県内在住者ですら多度津が発祥であることを知らない、あるいは多度津に本山があることは知っていても何をしている団体なのかは知らないということも珍しくありません。これまでは年に数回、演武派遣や一般見学者の受け入れがあるものの、本山がみずから出向いて宣伝を行うことはほとんどなく、要望があれば受け入れるというスタイルでした。

ところが創始70周年(2017年)により、メディアへの露出機会が増え、多度津京極少林寺拳法太鼓

の活動も本格的になったことから、外部からの見学や演武派遣の依頼が増え、地域にとつて開かれた本山、親しみやすい本山が求められるようになりました。

そこで、2019年度より本山一般開放事業を開始したところ、毎週、どこかの団体が本山に見学に訪れたり、県内のどこかで演武や多度津京極少林寺拳法太鼓の公演が行われたりするようにになりました。



地元官公庁、 民間企業とのコラボ

昨年の6月には、JR四国が主催するツアー事業「四国家のお宝」の一環として、「知られざる少林寺拳法の世界」なぜ、多度津で少林寺拳法が生まれ、今も愛されているのか?」と題したツアーの募集が行われました。2回の開催で、それぞれ定員20名としましたが、募集開始後すぐに定員に達しています。当日は、本山職員と多度津町長が車で出迎え、その後、町歩きをしながら本山に向かい、本山で館内見学、多度津京極少林寺拳法太鼓による太鼓演奏と演武見学、坐禅と少林寺拳法健康プログラムの体験を行い、再び町歩きをして記念館(五畳半道場)の見学をするという行程でツアーが行われました。

訪れた方は、9割超が四国四県から、全体の7割超が香川県内からの参加でした。参加理由としては、以前から本山があることは知っていても、行ったことはなかったという方が多く、このことから、関心はあっても入りづらかったという本山の印象が分かります。

本事業の開始にあたっては、J R 四国のみならず地域活性化のために百十四銀行の地域創生部が企画段階から協力しています。地元官公庁および民間企業の女性職員からなる「瀬戸内モニターガールズ」を動員して、事前にデモツアーを行い、参加者の目線で適宜助言を頂きながら本番に向けてプログラムを組み上げ、さらにその様子を動画にして銀行の窓口で流すなど、事前のPRもしていただけました。

これまでの本山は、教区、道院、門信徒に目を向けて事業を展開していましたが、今後そのつながりや重要度は変わりません。しかし、とかく内部にベクトルが向きやすい宗教法人にとって、他団体とコラボすることは、社会とのつながりを持ち、地域に開かれた本山として、新たな

価値を生み出すきっかけになったのではないかと考えられます。このツアーは大変な好評を得ており、コロナ禍が明ければ、ことしの10月にも行う予定で企画を進めています。



坐禅体験



町歩きをして本山へ

施設の提供

本山がプログラムを組むのではなく、イベントに施設を提供したケースもあります。昨年、多度津町が北前船寄港地として日本遺産に登録されたのを機に、その交易の歴史と関連する産業を子どもたちに学んでもらおうと、日本財団、西日本放

送、多度津町が企画した「海の学校」の開催場所として金剛殿を提供しました。2階建ての金剛殿は、1階が道場、2階は道場としての用途だけでなく、机や椅子を並べて講義会場として使用することもできるようになっています。

ふだんは本部道院の活動場所となっていますが、今後は門信徒以外の方が気軽に訪れることができるようにしたり、地元企業の新入職員研修の場として提供したりするなど、



金剛殿2階での学習の様子(海の学校)

さまざまな可能性を模索しており、徐々に地域の拠点としての役割を増やしつつあります。

外部団体のウェブ媒体への掲載

前述した「四国家のお宝」は、ツアー実施以降に波及効果が表れました。ツアー参加者の中に、秋にイベントを予定している団体の方がおられ、その方から多度津京極少林寺拳法太鼓および演武派遣の依頼が入りました。また、同じく参加者でインバウンド関係の個人事業主の方から新しい業者をご紹介いただき、「四国家のお宝」のプログラムを再編成する形で、カナダ人の空手愛好家グループの受け入れを行いました。

このツアーの企画をしていただいた株式会社四国遍路は、主に海外から来るお遍路さん向けに情報発信や旅行プランの企画を行っており、このツアーの企画を機に、同社が運営する「四国ガイド紹介サイト」「四国旅人」および「四国ツアー紹介サイト『四国作旅』」の二つのウェブサイトに本山の紹介を掲載していただくことができました。



カナダ人空手愛好家グループのツアー受け入れ



観光や旅行関係においては、自団体のウェブサイトに掲載される情報よりも、他団体に掲載される情報の方が注目されやすいことから、広報戦略として、他団体の媒体に紹介されることによる認知度アップも図るようになりました。その後、瀬戸内海を共有する7県の魅力を発信する、地域在住のフォトライターが作る「瀬戸内ファインダー」のサイトに、またウェブ以外では香川県内に国際規模の会議を誘致するための「かがわユニークベニュー&エクスカーショングイド」に新規掲載をしていただけることになりました。

なお各種媒体の掲載にあたっては、そのほとんどが取材形式で行われています。金剛禅が宗教法人であること、創始目的が一般の武道団体とは違い、「人づくり」であること、少林寺拳法の技術ができる人を育てるのではなく、世の中をよくするための活動であることに関心を持たれるようであり、特に全国各地にいる道院長が、正業を持ちながら道院運営をされていることに大きな驚きを示されます。金剛禅運動が世の中に必要ではあっても、まだまだ認知が



瀬戸内ファインダー取材時の様子



されておらず、さらなる広報活動の必要性を感じさせられます。

瀬戸内ファインダー

<https://setouchifinder.com/ja/detail/27682>



四国旅人

<https://www.shikokutabizine.com/masashi-tomita>



かがわユニークベニュー & エクスカーショングイド

<https://www.kagawa-mice.jp/ja/uniquevenue.html>



四国作旅

<https://www.tsukuritabi.tours/tadotsu-syorinjikenpoexperience>



金剛禪公式 Instagram の運用開始

インスタグラム

新型コロナウイルスの影響により全国各地で道院活動の自粛が進む中、各地の道院では、門信徒に直接会うことはできなくとも、オンラインで修練を行ったり、動画やクイズ、メルマガの配信を行ったりするなど、さまざまな手段を用いてつながろうと努力をされていました。

そのような中で、現場の活動を後押しできないかと考え、本山と門信徒をつなぐためのものとして始めたのがInstagramでした。職員でも使ったことのない者が多く、初めは手探りの状態でした。テスト運用をしながら進めており、公開前にもかかわらず、どこからかアカウントを見つけて「いいね」をしてくださる方もいました。

またそのような時期に、さらなる感染の拡大により、本山職員の在宅勤務が始まることになったため、写真や動画を撮りだめし、過去に撮影したデータも活用しながらコンテンツを作成し、在宅でも運用できるようにしていきました。配信にあたっては、門信徒が自宅で修練するとき

の参考となるもの、道院活動が再開したらやってみたいと思えるもの、子どもも楽しめるもの、一般の方にも分かりやすいものを心がけ、ミニ法話やリアルタイムの本山の様子を織り交ぜながら、幅広いコンテンツを届けられるようにしています。

また、Instagramの活用により、これまでよりも頻繁に、タイムリーに本山からの情報を発信できるようになり、投稿に対するコメントや返信によって、門信徒をはじめとしたフォロワーの意見を直接頂けるようになりました。

さらに、フォロワー分析により、どの年齢層や性別が多いのか、どの地区が多く見ているかなどのデータを取ることが容易になり、30代、40代のフォロワーが多いことも分かっています。随時データが蓄積されており、これらは今後の広報戦略を練るうえで、貴重な判断材料となります。

このように、Instagramは広報ツールの一つとして大変便利なものではありますが、一方で、運用開始後まもなく、閲覧方法がわからないという声もたくさん頂きました。そ

◀ Instagram (金剛禪総本山少林寺【公式】)



コンテンツ撮影の様子



撮影後は在宅でも編集が可能

こで、急ぎよ、金剛禪公式サイトの一部をつくり替え、Instagramのアカウントを持っていない方でも同様

のコンテンツを見ることができるようになっています。SNSを使いながらも、SNS以外の広報ツールを組み合わせて、より効果的な広報を現在検討しています。

新たな可能性

少林寺拳法では、団結力や絆が大事にされますが、一方で、それにより、排他的なイメージを持たれていたのかもしれない。

ここ数年、本山を訪れる方で、古くから本山を知っている方からは、「少林寺さんが身近になった」という声を頂くようになりました。これは本山が、修行に励む人だけではなく、これまで以上に世間一般の人を大事にするように変わってきた結果ともいえます。開かれた本山にしていることで、これまで全国の道院を通じての布教活動が主だったのに対し、本山みずからも布教活動に力を入れることが可能になりました。新型コロナウイルス禍の出口が見えない社会状況ではありますが、さまざまな広報手段を用いて、本山と道院それぞれが効果的な布教活動を展開できるように、これからも広報の在り方を検討していきます。



開祖語録 ダイジェスト

1977年3月
大学合宿

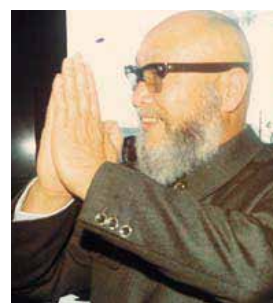
ソ連旅行をして帰ってきたときに日本の財界の人たちと対談した際、「今の左翼の跳ね上がり学生、あんなのは戦車で踏み潰したらい」と驚くべき発言が飛び出した。

自分に反対する奴、そんなのは存在価値もない、えい、ぶっ殺してしまえ。要は、自分だけが正しい正義だとする思い上がりであり、面倒くさい邪魔者は消せ式の考え方が、案外、心の底では渦巻いて、あれはあれで本音なんだろうと拝聴した。右翼と同じである。が、とにかく気に入らんのは抹消という発想、私は大嫌いだし軽蔑する。

これからいろいろな動きや運動が起こるにせよ、われわれはその中で、右でも左でもない日本人として祖国日本を愛するといふ前提に立ち、人類の幸せにまで行きたい……という少林寺の主張する金剛禅運動、平和運動、ここを迷うことなく行つてほしいと思う。

人類の幸せにつながる道というのは、他を一方的に否定する道ではありえない、

……調和の道である



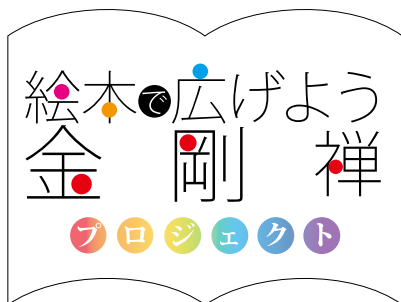
※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺を意味しています。

調和の道であるという、ここを間違えるなど言いたい。調和とは、単なる同調や妥協ではないんだぞ。反対するものが存在する、まずこの認識が必要。そしてその上で相互のよさを見出し、持ち寄つてよりよいものに育てる行き方、これが調和です。

少林寺拳法は、突いたり蹴つたりの世界で一人のチャンピオンを育てるなんてことは考えてもいないし、全体のレベルアップを願う運動をしてきた。だってね、君ら全部が変わらなければ、どんな革命を何度やろうが日本という国は変わらない、変わらないからだ。

しかも、僕らだけが分かり、変わったつてしようがない。君らが学校を出、社会に参加し、そして少林寺拳法で学んだことを継続して考え行動してくれていったら、いつか日本だってよくなっていく。

総理大臣にならんでも、国民の大半がまともで質が高かったら、ちよつとは誇れる国になれる、そう思えよ。



苫小牧拓勇道院
道院長 松村修身

子どもたちの心を捉える

灰谷健次郎著『天の瞳』の主人公・倫太郎のモデル、杉本あきひろさんの読み聞かせが始まると、子どもたちのまなざしは真剣になります。読み終わると、「えー」とか「早〜い」とかの声上がり、笑いと、アンコールが起こります。彼のように、「子どもたちの心を捕まえたい」と思ったことがきっかけとなり、私は絵本の読み聞かせを始めました。あきひろさん曰く、自称「開祖(宗道臣先生)、最後の弟子」だそうで、開祖より、「心の捉え方」を身につけられたのかもしれない。私が読み聞かせを行うときに

は、文章を頭に入れておき、意識の8割は、絵本ではなく子どもたちの顔と様子に向けられています。残りの2割で、話の大切なところで絵本を見てページをめくりまわす。あきひろさんを見て私が感じた大事なことは、相手の年代・場所の雰囲気・読む本の選択によって読み聞かせを変化させ、相手に合わせること(守主攻従)です。彼の子どもたちの気持ちを捉える力は「本物」です。機会があれば、ぜひ彼の読み聞かせに参加してみてください。

最近読んだお薦めの絵本

◎きみはほんとうにステキだね

作・絵：宮西達也
出版社：ポプラ社



むかしむかし、大むかし。いじわるで知られもののティラノサウルスというきょうりゅうがいました。ある日……
感動の友情物語。

とりな
やまさら しずか
鳥啼いて山更に幽なり

禪では、無、心、空、刹那が問われ、それらは自らの意識、認識である。

無私（意識）より、この世に生まれ、心（脳）の発達により、有識となり、そのすべては本来、空…（何も無いがそのことを認識しているものは実としてある）。

刹那の連続が時間となり、138億年前のビッグバン（説）より時は進み、空間は広がり続けている。命の長さは、この観点では刹那の刹那に他ならない。

その刹那を、宇宙の理（＝ダーマ）により、生を受け、それぞれの命を生きている。

命は、小さな点のつながりでもある。

長い時間をかけた進化の過程で、恐竜は卵を産み、命をつないでいた。しかし、卵では、巢を空けたとき他の恐竜に襲われる。これを避けるために、卵を腹中で孵すようになり、哺乳類へと進化したと言われている。

進化とは適応に他ならない。優れたものが残ったわけではなく、適応したものが残った。

人間（生物学上ではヒト、ここでは人間）のルーツは、ホモサピエンスである。

進化の過程で屈強なネアンデルタールは絶滅した。ホモサピエンスも、一時期絶滅の危機になったが、適応して生き残った。

そして、今、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、未知のウイルスであるが故に、治療法がなく、ワクチン開発も時間を要している。

広大で無限のように感じられる宇宙、その中で微塵の如く小さな地球。その地球上の生命体、細菌、ウイルスに至るまで、すべて宇宙の摂理によつての存在である。しかし、この小さな人間の命は重く、それを救う手段を模索している。人類にとつて未知の領域のが多であり、探求欲はなくなることがない。

今後も必然的に、新たなウイルスや細菌が脅威となる。これらを克服し、人間が生き延びるには、獲得免疫によりウイルスや細菌と共生する他に手がない。

感染すると、必ず死に至るといふ病気ではないが、治療法と有効なワクチンもないので、世界は震撼している。

このような時、宗教はどのようなことがで

きるのだろうか？

また、金剛禪は、どのようなことをすべきであろうか？

質が問われている。

また、このような時こそ足下を見直し、良き変化ができるとも言える。

我々道院長は、何をなすべきか。

日頃唱えてきたことの行動が問われるのである。但し、これは何かをしなければとのことではない。自己に帰し、見直す良い機会でもある。チャンスなのだ。

在家信者の我々は、正業がある。その正業が厳しい時、これまでと比較して、思うところがあるはずであり、そこに生き方のヒントがある。また、道院運営もしかり、一期に一度のような経験の中で、見直すべき現実に基づき、その上での改善点も見いだせる。

災難や窮地に立たされたとき、拠り所とできるものが何か、その何かが、信心であり、確信による行動、その勇気が日頃の精進であるという金剛禪であればと思う。

く鳥啼いて山更に幽なり

道院長

vol.54

元気^の素

福井県・あわら^{ひがし}東道院
道院長^{まつだのりお}松田典夫(49歳)

思わぬひと言が設立に

ある日、同い年の幹部拳士が、「道院を設立するので認定研修会に申し込みます」と言われたので、「すばらしい。頑張ってください。自分も（いつかは）道院を出したいと思っているんですよ」と話したことがありました。すると、その数日後、当時の教区長から電話があり、急きよ面談が実施され、所属していた鯖江^{さばえ}北野道院の濱谷典明道院長からも賛同を頂き、あれよあれよという間に設立することになりました。

しかし、今から考えてみると、武専で指導されている道院長が魅力的であったこと、同期の拳士が道院長や支部長になっていることに刺激を受けていたこと、そして、何よりもっと福井県を盛り上げようという熱い思いが心の奥底にあったからではないかと思っています。

支えてもらっているという実感

道院設立には、多くの人が支えとなってくれました。まず、設立時には専有道場を共有で使わせていただいた丸岡南道院の小嶋鉄雄道院長

などの協力者のおかげで、何とか道院として形にすることができました。そして、なかなか入門者がなく困っていたときは、職場の元上司が、息子さんに武道をさせたいということ、見学・体験入門に来ていただき、息子さんと娘さん、ご本人、さらには息子さんのお友達までも入門してくれました。また、私の姪^{めい}が入門してくれたのをきっかけに、今では私の両親も道衣を着て修練に励んでいます。専有道場は、6年ほど探してやっと見つけた物件の空きスペースに建設しました。道場のこだわりとしては、錫杖^{じょう}の組演武ができるよう天井を高くするようお願いしたら、工務店さんは、泣きを入れながらも無事に完成させてくれました。この方々がいなければ、現在のあわら東道院はなく、「自分はこれだけ多くの人たちに支えてもらっているんだ」という感謝の気持ちと、支え合うことの大切さを改めて思い、頑張っていく決心ができました。

興味を持つと、楽しく、明るくなる

道院では、子どもから高齢者までが一緒に修練をしています。とにかく一人一人に話しかけるように心がけています。いろんなことに興味を持ってもらいたいと思っているので、法話ではいろいろな話題が出せるように考えています。興味を持って熱中すると真剣にもなり、結果、楽しく、明るくなると思っています。

今後は、イベントを通じて、道院活動の拡大を進めていこうと考えています。また、災害ボランティアに個人で参加するだけでなく、チームで参加するようなことをやってみたいとも思っています。

道院長になろう！仲間が必ず力となってくれます

道院長としての活動は、ほとんど日常生活の一部になっています。特に、県の事務局の業務をするようになってからは、朝起きてから出社するまでの間に、各種手続き、処理、返信をするなど、時間の使い方を工夫するようになりました。また、専有道場を設置したおかげで、場所を借りたり、荷物運搬をしたりする時間が省けるようになりました。人の性格はそれぞれ違うのと同様、道院長としての生活スタイルもさまざまです。しかし、目指す方向に変わりはありません。これから道院長になろうとされる中で、もし不安に思うことがあるということ、リスクに対する感性が働いているということですから、具体的な対策が取れるということです。



いろいろな方に相談して課題を明確にしていけば、必ず力となってくれる仲間ばかりですから、解決できるはずですよ。

幹部拳士の皆さん、道院長となり、さらにご活躍されることをお祈りします。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

本山 開催報告

● 本山公認教区講習会(派遣講師)

〔2月16日〕山口県教区(鈴木義勝)

〔2月23日〕茨城県教区(三柴始)

● 小教区研修会

〔3月20日〕静岡伊豆小教区

〔3月20日〕山口東小教区

〔4月5日〕奈良市北部小教区

● 新春法会

〔1月18日〕北海道教区

道院

活動事例

前号(71号)の「特集」で、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした新たな工夫を紹介しましたが、その他の事例について紹介します。

◆ 清水袖師道院

新型コロナウイルスと共生する入門式

7月17日、入門式を執り行いました。ドアノブも床も法具も、すべて消毒し、全員37度以下の体温確認をして、マスクを着けて参加、すべて2メートルの距離を保って行いました。

「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」の中に、自己を感染から守り、他人も感染から守る意味を持たせ、非常事態

清水袖師道院



の中にこそ金剛禅の教えを生かせるとの信念を持ってもらいたいと願い、導師を務めました。ふだんとは異なった様子は新鮮に感じ、入門式のよい雰囲気や皆で感じることができました。ダーマは、すべての事柄が関わり合いながら変化している働きなので、ピンチとチャンスは表裏一体です。

振るっいてピンチですが、ますます護身練胆、健康増進、精神修養が必要とされているのではないのでしょうか。新型コロナウイルスと共生する中で、道院長も拳士も変化を楽しんで修行に励みたい。 (平井富士雄)

◆ 大阪富木道院道院開放

専有道場と道院長が経営する(整骨院の

開院時間外を開放し、近隣の児童や生徒に対してしほの安息の空間を提供しました。

◆ 西多摩瑞穂道院

SNSを活用

もともと、緊急連絡用としてSNSのグループをつくっていましたが、それを活用し、

道院長から週に一回、「修練の心得」というテーマで、情報発信を



大阪富木道院

行っています。

内容は、保護者でも理解できるように、身近な事件や事故などを題材に取り組んでいます。本山から案内されたクイズも配信しています。

修練に関しては、子どもたちが動きを忘れてしまわないよう、まず基本練習の動画を撮影し配信、その後、子どもの動きを保護者に撮影してもらい、返信してもらって指導しています。

新入門の拳士にも、画像や動画をやり取りして個別に指導しています。 (小原哲治)

〇〇〇 僧籍編入・僧階補任請願の案内 〇〇〇

金剛禅の門信徒として僧籍に編入し、より深く教えを学び、自身を高めてみませんか。

● 僧籍未編入の門信徒の方(僧階を持っていない方)

准拳士以上かつ16歳以上の門信徒でしたらどなたも編入可能です。

詳細は9月中旬に案内メールを送付します。10月末までに、道院長に僧籍編入を希望する旨を伝えてください。

● 少導師、中導師の門信徒の方

所定のレポートを提出し、上位の階級に補任請願可能な方に対し、9月中旬に案内メールを送付します。

ぜひ、上位の階級に補任請願していただけるようお願いいたします。

2020年6月度 認証

●交代 ■2020年6月1日付

東大阪灰塚道院

団栗 則之

僧階昇任者

権大導師

■2020年8月1日付

向井 基樹(埼玉行田道院)
島澤 良次(東京試衛館道院)
岡部 和也(神奈川大和道院)
中尾 明(湘南葉山道院)
南雲 正明(湘南葉山道院)
石野 学(湘南葉山道院)
鈴木 準(湘南葉山道院)
砂月 恵美(岐阜可児道院)

中導師

■2020年5月1日付

伊藤 雅浩(宇部道院)
石川 亮(門司東道院)

■2020年6月1日付

植竹 康夫(松戸上本郷道院)

権中導師

■2020年8月1日付

関 緑(太田西道院)
岡本 剛(埼玉中部道院)
吉野 広二(川越道院)
山口 典昭(木更津東清道院)
濱崎 正彦(東京目黒道院)
秋山 千秋(三鷹中央道院)
小野 哲嗣(三鷹中央道院)
三村 充弘(調布道院)
加藤 剛晴(多摩豊田道院)
木下 真吾(東京国分寺道院)
額 洋史(亀有道院)
前田 武彦(八王子西道院)
坂本 卓己(東京大塚道院)
チモシェンコ・ナターリア(東京大塚道院)
尾崎 昭弘(相模原南道院)
松永 真良(湘南二宮道院)
市橋 康彦(横浜緑園道院)
山村 晴人(秦野東道院)
松田 博(柏崎道院)
山口 忠道(山梨峡東道院)
濱口 貴志(松阪西道院)
久保田 利夫(大阪茨木道院)
小椋 博美(播磨山崎道院)
内原 和弘(紀州本町道院)
松原 研悟(笠岡道院)
友定 実穂(岡山西大寺道院)

芳野 靖紘(坂出専修道院)
松本 圭司(坂出専修道院)
神崎 隆一(行橋中部道院)

少導師

■2020年8月1日付

岸本 尚吾(岩見沢北道院)
金中 数夫(岩見沢北道院)
氏家 博昭(岩見沢北道院)
佐垣 強(旭川神楽道院)
秋本 貴史(青森南道院)
田名部 和行(青森南道院)
加賀谷 啓造(八戸南郷道院)
吉田 善雄(盛岡中部道院)
萩田 進(一関道院)
小野関 芳美(渋川道院)
木原 和泰(草加道院)
小林 航大(熊谷北道院)
小林 奈美(熊谷北道院)
安岡 太郎(入間藤沢道院)
笹野 一郎(埼玉北鴻巣道院)
齊藤 慎一(我孫子道院)
福田 崇純(我孫子道院)
高野 紘吉(我孫子道院)
本田 貴敬(千葉匝瑳道院)
今村 祐子(東京千代田道院)
天野 雅弘(亀有道院)
金子 佳央(東京浮間道院)
吉岡 胡桃(東京足立東和道院)
山村 怜璃(秦野道院)
江無田 建善(横浜本郷道院)
巖崎 嶺(綾瀬深谷道院)
富森 史子(綾瀬深谷道院)
川崎 由稀(綾瀬深谷道院)
五味 潤 浩之(綾瀬深谷道院)
山本 麗子(綾瀬深谷道院)
窪田 一彦(横浜星川道院)
古川 聡(横浜星川道院)
倉根 崇(横浜星川道院)
酒井 風(小松南部道院)
石田 叶恵(三方ヶ原道院)
荒井 彩乃(三方ヶ原道院)
河合 翔哉(三方ヶ原道院)
青山 恋弓(三方ヶ原道院)
横井 風人(愛知高上道院)

横井 大輔(愛知高上道院)
山下 聡(名古屋島田道院)
長谷川 友一(刈谷南道院)
山本 英喜(名古屋高蔵道院)
寺田 俊公(湯の山道院)
遠藤 香真(湯の山道院)
月原 多佳久(洛南道院)
山崎 登喜夫(洛南道院)
田村 浩一(洛南道院)
石田 真(洛南道院)
吉原 舞(洛南道院)
佐藤 智宏(洛南道院)
高橋 良平(京都明珠道院)
青木 拓磨(京都明珠道院)
深尾 和美(京都明珠道院)
小西 英徳(大阪伊吹道院)
西宮 昌宏(大阪千代田道院)
山川 貴志(豊中北道院)
塩田 耕平(豊中北道院)
高橋 孝廣(豊中北道院)
山岸 寛寿(富田林北道院)
森井 正弘(富田林北道院)
平田 健(豊中岡町道院)
宮澤 敏和(大阪茨木道院)
北田 翔士(大阪茨木道院)
大城 早由里(豊島西道院)
安積 由記(大阪山直道院)
山内 貴弘(大阪山直道院)
木原 結城(東大阪小阪道院)
小笠原 健(西宮西道院)
廣田 卓也(神戸西神道院)
林 純子(神戸板宿道院)
岸本 雄次(三田南道院)
小出 浩志(広島五日市道院)
齋藤 豪(高松中央道院)
小井 隆之介(丸亀京極道院)
榎本 愛菜(丸亀京極道院)
大西 豊行(新居浜道院)
林 浩之(川之江道院)
豊崎 敬二(伊予宮下道院)
門田 亨(伊予宮下道院)
山原 美幸(福岡宗像道院)
山下 大輔(福岡宗像道院)
菓子野 潤一(都城東道院)

お布施

布施

▷豊田末野原道院 服部俊美
▷岡崎中部道院 加藤利彦

10,000円
10,000円

▷小名浜道院 福家祥弘

5,000円

訃報

なかの ひとし 中野 人忍 京都智恵光院道院道院長、第257期生、大導師准範士六段、2020年6月14日逝去、満67歳
ほそかわ まさよし 細川 正義 元紀州白蓮道院道院長、第78期生、権少法師大範士八段、2020年7月18日逝去、満87歳

編集後記 ▶まず、先の九州、中部、東北をはじめとする豪雨災害により、被害に遭われた道院長、門信徒の方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興いたしますように。▶月刊『致知』2020年9月号に、宗匠馬少林寺拳法グループ代表が「私の座右銘」で掲載されました。宗代表の座右銘は「備えあれば患いなし」——。常に世の中の動きに関心を持ち、深く洞察し、近未来に対応していく備えを整えていくことが大事だと述べておられます。単なる精神論にとどまらない、具体的な行動性を伴った心構えとしての銘です。▶この言葉は、私たち布教者、門信徒にとっても、文字どおり座右に置いておきたい言葉といえましょう。なぜなら、日々目まぐるしく変化する時代にあって、来るべき未来に的確に対応するためには、「今、しなければならないことは何か」を考えることが大変重要であるからです。▶新型コロナウイルス感染症は私たちに共通する話題ではありますが、一方で私たちは自分だけの人生を歩んでいけるのです。一人一人が、自分の人生をつくっていくために、今、しなければならないことは何か。そこを考えていくことが大切なのですね。合掌(い)

表紙 ▶三野智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに「あ・うん」の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト ▶

<https://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
管長法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。



2020年9月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<https://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：飯野貴嗣

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌『あ・うん』追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山市教課にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

はりま やまざき 播磨山崎道院 道院長 あずま とよし 豊俊

すばらしき金剛禅。亡き師の一周忌に寄せて

尊敬してやまない師、元・熱田道院道院長、故・藤田昌三先生の一周忌を7月29日に迎えました。思えば昨年7月、播磨山崎道院設立45周年記念行事を企画する中で、高齢の藤田先生をご招待するべきかどうか考えていたところ、道院幹部から「ぜひとも招待したい」、できれば「奥様も一緒に一泊のご旅行をしていただきたい」と申し出があり、私もご招待させていただこうと決心しました。それならば、藤田先生の旧知の間柄である先生方もお招きして、楽しいひとときを味わっていただくという準備を進めておりました。しかし、周年行事の直前に奥様から、「主人が体調不良で入院し、参加ができなくなりました」との予期せぬ連絡があり、それから一か月もたたないうちに、藤田先生の訃報が届きました。諸行の無常を思い知らされた出来事でした。

また、その年の12月、本山において藤田先生の物故指導者顕彰法要を執り行いました。大澤隆管長が導師を務め、少林寺拳法グループ各役員の皆さまが参列する中、先生が永年にわたり金剛禅の布教に情熱を持ち続けたことを、奥様はじめご家族の皆様は感じることができたと思います。厳族の皆様は感じることでできたと思います。厳族の皆様に法要でした。私自身、遺品収蔵棚の前で香を奉じ、拝を為すとき、「先生ありがとうございました」、その言葉が感極まり出せないまま、ただただ合掌礼をしていました。

いまさらながら思うに、師、藤田昌三先生は、金剛禅運動(幸福運動)をまさに実践された真の指導者でした。開祖が示された「私たちは生きているのではない。生かされているのです。せっかく生かされているのだから、自身が幸せになる努力もするが、他者の幸せを願う。他者の幸せを自分の幸せと考えるようになるうじやないか」という教え、さらに「道訓」の「師を重んじること、朋友を信じることを、訓を垂れて人を導くこと」を常に実践され、私たち後進に伝えておられたと強く感じさせられています。

投稿大募集 道場や拳士のちょっといい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選別はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp



宗門の行としての少林寺拳法

相対演練は宝の山

修練に動画を活用することは有効である。しかし、どのような心境で、どのように先を取ったのか。また、どう力を働かせたのかということまでは一切分からない。

日頃から本を読むことや講演を聞くことも大切であるが、それらを生かせるようになるのは簡単なことではない。

修練も日常も、リアルなやり取りの中で学べる要素は数限りない。「相対演練」は、まさに宝の山である。



龍華拳 両手十字小手

金剛禅総本山少林寺公式サイトで動画をご覧いただけます。

文／富田雅志 演武者／中川 純 正範士七段・富田雅志 大拳士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法